

作成日 2012年05月30日
 改訂日 2017年12月28日
 改訂日 2018年10月31日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 コバック試薬
 会社名 バイオメリュー・ジャパン株式会社
 住所 〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-7
 赤坂溜池タワー2F
 担当部門 薬事部
 電話番号 03-6834-2666
 FAX番号 03-6834-2667
 推奨用途及び使用上の制限 試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理的・化学的危険性 引火性液体 区分3
 自然発火性液体 区分外
 水反応可燃性化学品 分類対象外
 健康に対する有害性 皮膚腐食性・刺激性 区分2
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A
 特定標的臓器・全身毒性(単回曝露) 区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)
 環境に対する有害性 水生環境急性有害性 区分3
 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語 危険有害性情報

警告
 引火性の液体及び蒸気
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 中枢神経系への障害のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 水生生物に毒性

注意書き 安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 保護手袋を着用すること。
 静電的に敏感な物資を積みなおす場合、容器を接地すること、アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 換気の良い場所でのみ使用すること。

救急措置	<p>保護眼鏡、保護面を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 環境への放出を避けること。 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 曝露したとき、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。 吸入した場合、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
保管 廃棄	<p>換気の良い冷所で保管すること。 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
ジメチルアミノ-4 ベンズアルデヒド	5%	C9H11NO	(3)-2917		100-10-7
アミル アルコール (1-ペンタノール)	>70%	C5H12O	(2)-217		71-41-0
塩化水素	<10%	HCl	(1)-215		7647-01-0

※本品に含まれる塩化水素は、10%未満であるため、劇物及び劇薬には該当しない。

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 塩化水素(政令番号:98)(<10%)

4. 応急措置

吸入した場合	<p>被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p>
眼に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>

5. 火災時の措置

消火剤

使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

特有の消火方法

消火を行う者の保護

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。
棒状注水、水噴霧。
極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火するおそれがある。
消火後再び発火するおそれがある。
火災によって刺激性、腐食性及び/又は有毒な塩化水素ガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
熱に晒されると、破裂して重度毒性蒸気又は分解生成物を放出することがある。
消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項

回収、中和

封じ込め及び浄化の方法・機材
二次災害の防止策

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外は近づけない。
作業者は適切な保護具(8. 曝露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
環境中に放出してはならない。
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
危険でなければ漏れを止める。
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気・全体換気

安全取扱い注意事項

接触回避

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
火気注意。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼に入れないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策	消防法の規制に従う。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質 保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管すること。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。禁煙。
容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. 曝露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標)	
		日本産衛学会 (2010年版)	ACGIH (2010年版)
ジメチルアミノ-4 ベンズアルデヒド	未設定	未設定	未設定
アミル アルコール (1-ペンタノール)	未設定	未設定	未設定
塩化水素	未設定	【最大許容濃度】 5ppm (7.5mg/m ³)	STEL C 2ppm

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
消防法の規制に従う。
局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具	換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 本製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態	液体
	形状	液体(25mLアンプル)
	色	データなし
臭い		特徴臭
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		データなし
燃焼又は爆発範囲	下限	データなし
	上限	データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度(空気=1)		データなし
比重(密度)		0.86
溶解度		水に完全に溶解する
n-オクタノール／水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし

分解温度	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
粘度	データなし
動粘性率	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	加熱すると、破裂の危険を伴う圧力上昇が起こる。
避けるべき条件	33℃以上、加熱。
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	塩素、水素、塩化水素。

11. 有害性情報

急性毒性	経口 経皮 吸入(気体)	データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 製品の形状がGHS定義による液体のため分類対象外に該当する。
	吸入(蒸気) 吸入(粉じん)	データ不足のため分類できない。 製品の形状がGHS定義による液体のため分類対象外に該当する。
	吸入(ミスト)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性		1-ペンタノールが区分2で、区分2の成分濃度の合計が濃度限界(10%)以上のため、および、EU:R38「皮膚を刺激する」の記述(bioMerieux sa 製品MSDS (2009/05/10))により、GHS:区分2「皮膚刺激」に該当する。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		1-ペンタノールが区分2Aで、区分2Aの成分濃度の合計が濃度限界(10%)以上のため、および、EU:R36「眼を刺激する」の記述(bioMerieux sa 製品MSDS (2009/05/10))から区分2A「強い眼刺激」に該当する。
呼吸器感受性		データ不足のため分類できない。
皮膚感受性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データ不足のため分類できない。
生殖毒性		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回曝露)		特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復曝露)		データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性		データがなく分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	データ不足のため分類できない。
水生環境慢性有害性	データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
-------	---

汚染容器及び包装

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意
 国際規則

海上規制情報 IMOの規定に従う。
 UN No. 1105
 Proper Shipping Name PENTANOLS
 Class 3
 Packing Group III
 Marine Pollutant Not Applicable

航空規制情報 ICAO/IATAの規定に従う。
 UN No. 1105
 Proper Shipping Name Pentanols
 Class 3
 Packing Group III

国内規制

陸上規制 消防法の規定に従う。
 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。
 国連番号 1105
 品名 ペンタノール
 クラス 3
 国連番号 1105
 品名 ペンタノール
 クラス 3
 等級 III

特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを運搬中に事故が発生した場合、その旨を直ちに保食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 輸送時にイエローカードを携帯する。

15. 適用法令
 労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(塩化水素)

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

廃棄物処理法

特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4第1号)(廃油)(引火点70℃未満の消防法引火性液体)

消防法

第4類引火性液体、アルコール類(法第2条第7項危険物別表第1)

船舶安全法

引火性液体類(危規則第2、3条危険物告示別表第1)

航空法

引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

緊急時応急措置指針番号

129

16. その他の情報

連絡先
参考文献

バイオメリュー・ジャパン株式会社
NITE GHS分類公表データ
EU CLP Regulation, AnnexVI
RTECS(2006-2009)

bioMerieux sa 製品MSDS (2009/05/10)

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。